

## 祭祀植物の意味とその変遷～沖縄県久高島の事例を通して～

山口ゼミ4年 岩城 玲央奈

### 【卒論目次】

第1章 序論	第4章 祭祀植物
1 - 1 研究目的	4 - 1 久高島の植物
1 - 2 先行研究	4 - 2 祭祀植物とは
第2章 久高島の概要	4 - 3 植物祭具～久高島の事例を通して～
2 - 1 久高島の地理	第5章 多用されるピロウとアダン
2 - 2 久高の男女の役割について	5 - 1 ピロウとアダンの生態
第3章 久高島の祭祀の概要	5 - 2 島における分布状況
3 - 1 祭祀空間	5 - 3 ピロウを使用する祭り
3 - 2 祭祀組織	5 - 4 アダンを使用する祭り
3 - 3 年中行事	第6章 植物と祭祀の関係
3 - 4 久高島と首里王府との関係	6 - 1 祭祀における祭祀植物の意味
	6 - 2 ピロウとアダンの意味に関する考察
	第7章 結論

### 【卒業論文要旨】

沖縄県南部に位置する久高島に関する研究は、島の祭祀を中心に首里王府との関係、口頭伝承、土地制度、漁撈活動など、様々な側面からなされている。特に祭祀に関しては膨大な量の研究があるが、その多くは祭祀内容や祭祀空間、祭祀の担い手に関するものである。しかし、久高島の祭祀を一つ一つ見ていくと所々に植物が登場することがわかる。祭祀における植物の使用は久高島だけに限らず沖縄全体で見られる傾向であり、祭具ごとに使用する植物が決まっていたり、各地域によって同じ使用法の祭具でも使用植物が異なっていたりと、植物の持つ意味は大きいように思われる。しかし管見の限り、植物に注目した祭祀研究は久高島だけでなく沖縄全体においても詳しいものはほとんどない。本論では久高島の祭祀内容や祭具、首里王府との関係などから、ピロウやアダンといった祭祀に用いられる植物（本論では以下“祭祀植物”とする）の意味やその歴史的变化を見ていくことを目的としている。そして久高島の祭祀研究に新たな視点を提示していくことが本論の目標とするところである。

### 【主要参考文献】

- 伊従勉 2005 「琉球祭祀空間の研究 カミとヒトの環境学」中央公論美術出版  
上江洲均 1982 「沖縄の暮らしと民俗」慶友社  
古典と民俗学の会 1991 「久高島の祭り」と伝承 - 古典と民俗学叢書15 - 」桜楓社  
多和田真淳 1980 「古琉球の祭具」『多和田真淳選集』古稀記念多和田真淳選集刊行会  
比嘉康雄 1993 「神々の原郷 上・下巻」第一書房  
日越国昭 1980 「沖縄県社寺・御嶽林調査報告」沖縄県教育委員会  
松井健 1983 「自然認識の人類学」どうぶつ社  
吉成直樹 1985 「沖縄久高島祭祀にみる世界観」『季刊人類学』16 - 1

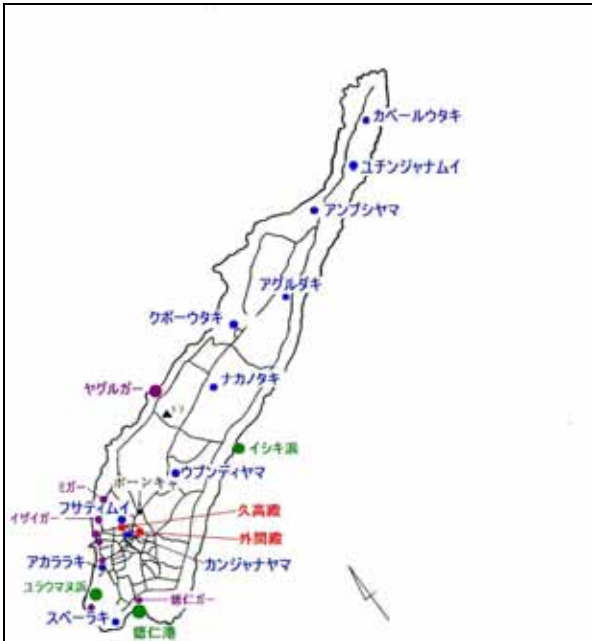


図1 久高島の祭祀空間地図

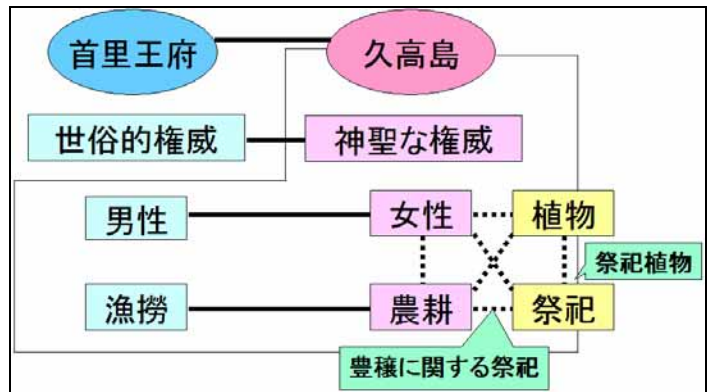


図2 久高島と首里王府の構造図

(吉成 1985「沖縄久高島祭祀にみる世界観」より一部改変)

表1 植物祭具の使用目的分類

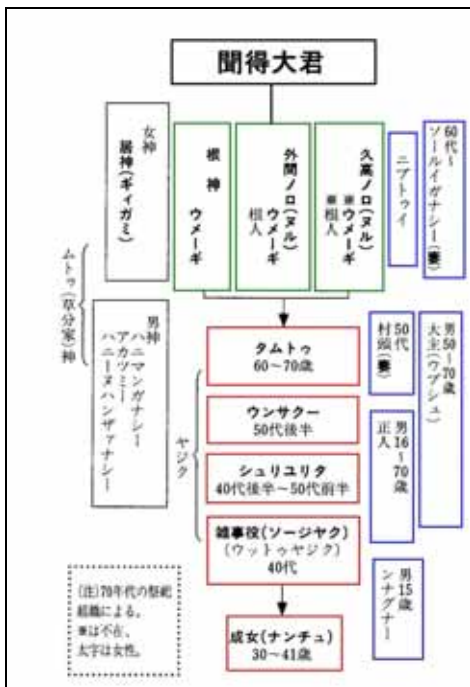


図3 久高島の祭祀組織図

(比嘉 1993「神々の原郷 上巻」一部改変)

植物名	植物祭具	象徴的(魔除けを含む)	実用的
ピロウ	クバオーシ(扇)	(神女への力の付与?)	(日常でも使用)
	敷物	(神女への力の付与?)	
	帯・裃	(神女への力の付与?)	
	神アツキの壁	(神女への力の付与?)	
	食器 桶の蓋 浮き	(神女への力の付与?)	
アダン	アアナシ(紐)		
	サバ(草履)		
オオハマボウ	七つ家		
	食器		
ガジュマル	七つ家		
クロツグ	かき混ぜ棒		
ゲットウ	ハーサムーチ	(魔除け)	
サツマイモ	冠	(神との通信、依り代)	
ススキ・ダンチク	シキムトウ(敷物)	(魔除け)	(農作物の下に敷く)
ススキ・シマグワ	サン	(魔除け)	
ススキ・チガヤ	ノーサ(束)	(魔除け)	
ダンチク	ダーク	(魔除け)	
デイゴ	食器		
トウツルモドキ	ハブイ(冠)	(神との通信、依り代)	
	束	(魚を追い込んだときの仕草を象徴)	
ナガミボショウジ	アダカ	(作物の生長・神女の成長を象徴、供物を被う)	
バナナ・フクギ	船	(害虫を海へ送る船を象徴)	
ハマヌビウ	七つ家		
ハマユウ	浮き		
ホソバワダン	和え物(儀礼食)		(普段も食べる)
モンバノキ	食器		

